

海上コンテナによる小口混載輸出の実証実験 ～台湾で道産品の販売会開催中～

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

今年度、北海道開発局では、道産食品の輸出拡大に向けた輸送コストや海外ニーズの調査を目的に、海上コンテナによる小口貨物の混載輸出及び海外でのテスト販売等の実証実験を行いました。

北海道開発局では、北海道総合開発計画における道産食品輸出額 1,500 億円の達成に向けて「農水産物輸出促進基盤整備事業」による屋根付き岸壁を整備するなど、輸出拡大に向けた取組を進めております。

本実験では、令和元年 8 月より、道内企業の輸出ニーズを集約し、海外輸入企業とのマッチングを可能にするウェブサイト「道産食品輸出チャンネル」を試験運用し、テスト販売への参加や新たに輸出を希望する事

業者を募集しました。

チャンネルを通じて集まった道内企業 29 社(66 品目)の商品を 9 月から 11 月にかけて、苫小牧港発の計 5 本の海上コンテナによる小口混載便を利用して台湾の基隆(キールン)港まで輸出しました。

対象商品は令和 2 年 1 月にすべて販売会場である台中市のアンテナショップに到着し、順次販売を開始しています。とりわけオホーツク産の長芋や別海町の生乳を使ったアイスクリーム等が好評で、すでに売り切れになっています。販売は令和 2 年 2 月末まで実施する予定で、店舗販売のほか、海外輸入企業との商談も実施する予定です。



小口混載貨物のパニング作業（苫小牧）



台中市にある販売会場①



「道産食品輸出チャンネル」を活用した商談



台中市にある販売会場②